

2019年6月14日(金)

老球の細道487号

「あいうえお作戦」 & 「ほめ殺し3原則」

バ会津バスケットボール協会 室井 富仁

ミニバスケットボール会津総体がスタートした。その開会式で初めて挨拶を依頼された。最初は高体連の県大会が重なっていたので断ったのであるが、日頃ミニバスについて思っているところがあったので、時間を調整して引き受けることにした。

色々なセレモニーなどの挨拶はとにかく決まりきった話になりがちであるので、そうならないよう「俺流スピーチ4原則」でまとめてみた。①女性のスカートとスピーチは短いほうが喜ばれる②エピソードを入れる③教訓を入れる④ダジャレ、爺様ギャグ、ジョークを入れて面白く。

選手たちにはわかりやすいようにと、言いたいことを「あいうえお」の頭文字にまとめて「あいうえお作戦」でがんばってくださいと話した。これを思いついた時自分でも上手くまとまるとほくそ笑んだが、家族の反応はいまいちで「ふーん」で終わった。

「あ」は「あきらめないで戦う」。ゲームはやってみないとわからない。ゲームは最後の最後までわからない。相手が強くてもあきらめない。途中で負けていてもあきらめない。

「い」は「一生懸命、全力を尽くす」。手抜きをせず、一生懸命がんばることがアスリートのマナーであり誇りである。全力を尽くして戦うことで、勝っても負けてもそのゲームから学ぶことをたくさん得ることができる。

「う」は「上を目指す」。試合は自分たちよりも強い相手を倒すことに面白さと喜びがある。自分たちの実力が二流、三流でも目指すは超一流。可能性は自分でも気づかない。

「え」は「遠慮しないで自分のプレイをやる」。試合は日頃の練習の成果を試す舞台。遠慮している場合ではない。ミスを恐れず伸び伸びトライする。日常生活の場では「遠慮する」は一つの美德かもしれないが、バスケットのコートの中では「遠慮する」ことは遠慮しなければならない(笑ってほしかったが「シーン?」)。

「お」は「大きなアクションで、大きな声を出して、大きな心でプレイする」。

指導者、保護者の大人の皆さまには、選手に対するパワーハラスメント等コーチングコミュニケーションが何かと問題になっている昨今、「ほめ殺し3原則」をお願いした。

①結果をほめる

勝利をほめる。上手になったことをほめる。

②経過をほめる

試合で負けても、リバウンドをがんばったり、ディフェンスをがんばったり、ベンチで声を出して応援を頑張ったりしたことなど、具体的なことをピックアップして、チーム、個人をほめる

③存在をほめる。存在を認める

先日亡くなったマラソンの高橋尚子選手のコーチ小出義男氏は、高橋尚子選手に結果が出なかったり、調子が悪くても「Qちゃん(高橋選手の愛称)、僕は毎日Qちゃんと一緒に練習できるだけ幸せだよ」と常に言い続けたそうだ。

一つの大会において選手のみならず、コーチ、保護者、審判などの大人達が目標を明確にして参加することで、皆が人間的にも社会的にも成長することを願ってやまない。